

2022年度
一般推薦入試（造形学部）
小論文（100点 90分）

次の文章を読み、小論文の課題を行ってください。なお、内容や写真等についての質問には、一切お答えすることはできません。

1945（昭和20）年、広島市に原子爆弾が投下されました。その5年後から平和記念公園の建設が進められ、広島平和記念資料館を含む公園が1955（昭和30）年に完成しました。この公園と建物の設計ではコンペティション（設計を複数の提案の中から選ぶ企画）が行われ、丹下健三らの案が選ばれました。

公園の慰霊碑の前に立つと、慰霊碑越しに原爆ドームが見えます（図1）。実は、公園と原爆ドームの間には川が流れており、別の敷地ですが、景観としては一体で見えるようになっています。一方、反対側には資料館の建物が柱で持ち上げられ、水平線を強調した姿で建っています（図2）。これらの景観は、設計者の意図した配置と造形によってつくりだされています（図3）。

以上のことを踏まえた上で、設計者はどのようなことを意図してこの公園と建物をデザインしたと考えますか。各図をよく観察し、あなたの考えを、800字以上1,000字以内で述べてください。



図1 慰霊碑越しに見える原爆ドーム



図2 慰霊碑の背後に平和記念資料館



図3 原爆ドーム、慰霊碑、資料館の配置

(国土地理院地図を加工して作成)